

2026年5月25日 日本テレビ定例会見

《要旨》

1. 営業状況

・放送収入

4月単月はタイムスポットトータルで前年割れのスタートとなりました。タイムの4月期レギュラー番組セールスは、販売枠の設定、セールス単価の維持に努め、前年越えとなっております。ただ、単発番組セールスは、前年の単発番組の反動等により減収ですが、タイムトータルでは前年並みという結果となりました。

・放送外収入

(澤取締役専務執行役員)

映画とイベントについてご報告いたします。

まず映画ですが劇場版「名探偵コナン ハイウェイの墮天使」の興行収入は、昨日までで124億円で好調をキープしております。すでに発表されておりますが、長年、毛利蘭の声を務めていただいた声優の山崎和佳奈さんが亡くなるという、非常に残念な出来事ございました。山崎さんはこの作品にご出演いただいております。我々はこの悲しみを乗り越えてしっかりと作品を応援していきたいと考えております。

もう1作品、「人はなぜラブレターを書くのか」は内容面で非常に評判のいい作品で、興行収入10億円を突破しております。

そしてイベントですが、5月15日～17日に音楽イベント「DayDay. SUPER LIVE 2026」が開催されました。今年で3年目を迎え、WEST.、FANTASTICS、&TEAM、超特急、MAZZELなど番組にゆかりのあるアーティスト、旬のアーティストに多数参加いただきまして、日本武道館3日間で大変な盛り上がりとなりました。このイベントは番組にとっても、出演いただいたアーティストの皆さんにとっても、そしてもちろん会場に駆けつけてくれたファンの皆様にとっても、非常に素晴らしいイベントになったと確信しております。

2. 質疑

3月期決算について

Q. 5月14日に公表されました、日本テレビホールディングス株式会社の3月期決算に関して受け止めや評価についてお聞かせください。

A. 2025年度(2026年3月期)決算は売上、各段階利益ともに過去最高という決算になりました。なかでも地上波のスポットの売り上げがプラス9%と大きく伸び、日本テレビホールディングス全体の売上・利益の押し上げに貢献いたしました。同時に事業収支についてもアニメやイベントなどが好調で大きく伸びました。

さらにグループ会社については、株式会社ムラヤマ、日本テレビ音楽株式会社など、売上、利益ともに大きく伸びた会社があり、日本テレビホールディングスが一丸となって作り上げた結果だと思っています。また、2025年度の期末配当も増配しておりまして、株主様にもしっかりと還元を進めて参りたいと思っております。

「FIFA ワールドカップ 2026」の放送決定と期待について

Q. 6月12日に開幕する「FIFA ワールドカップ 2026」はNHKとフジテレビ系と日本テレビ系で試合を放送すると発表されました。放映権の高騰なども指摘されるなか、今回放送を決めた理由と放送に向けての期待をお願いします。

A. 日本テレビは、全国高等学校サッカー選手権大会やトヨタカップ、FIFA クラブワールドカップなどを通じて、長年にわたり日本と世界のサッカー文化をお伝えしてきました。今大会も、史上最多となる48チームが参加する歴史的なイベントです。たくさんの方々楽しんで頂きたいと考え、放送権を獲得しました。特に日本代表は「史上最強」と呼び声が高く、本気で優勝を狙えるチームになったと思っております。若干のけが人が出てしまいましたが、それでも勝てるチームであると確信しております。我々の中継を通じて、世界トップレベルのプレーと日本代表チームの躍進を多くの視聴者、生活者の皆様にご覧いただき、日本中に熱狂と感動をお届けできるよう、全力を尽くしてまいります。ニュースや情報番組を中心として機運醸成に注力していきたいと思っております。

Q. 日本対チュニジア戦で「スペシャルアンバサダー」として本田圭佑さんが就任されていますが解説ということでしょうか。

(岡部取締役執行役員)

A. 「解説者」というよりも「日本戦スペシャルアンバサダー」という立場になります。その中で日本戦を解説することもあれば、関連番組等で日本代表、あるいはワールドカップ全体に関してコメントをいただくという形になると思います。

Q. チュニジア戦以外にも日本テレビの番組に出演されることがあるということですか。

(岡部取締役)

A. 試合中継は、現在は6月21日13時からの「日本対チュニジア戦」に限っておりますが、それ以外の番組への出演につきましては調整中です。

Q. 本田さんの解説・コメントに期待することは。

(岡部取締役)

A. 本田さんは、日本人で唯一ワールドカップ3大会連続ゴールを決めているという実績もさることながら、今もピッチに立ちつけている現役選手であり、まさにレジェンドです。本田選手ならではの独自の視点と経験に基づいた分析、そして何よりご自身の熱い言葉で、サッカーの面白さをさらに増幅させていただけるものと確信しております。今回もサッカーの魅力、日本代表の魅力と可能性を伝えていただきたいと期待しております。

Q. 本田さんが解説されるのは、今回が地上波初になりますが、どのように感じていますか。

(岡部取締役)

A. 日本テレビとしても全国高等学校サッカー選手権大会において、星稜高校の選手として活躍された頃からの縁がある日本のレジェンドです。日本テレビのサッカー中継で解説をしていただくのは初めてになりますので、我々も大変楽しみにしています。

ユニバーサルアクセス権について

Q. 国民的なスポーツ大会の視聴機会の確保などについて、国の有識者会議が2026年秋をめぐりに論点整理を予定していることについての受け止めと、今後の議論への期待を教えてください。

A. 5月20日に初会合があり、早速スポーツ団体のヒアリングが行われ、「放送と通信の両方で見られる環境が必要だ」、「子供たちが見られないのは将来のスポーツの発展に影響する」等の意見が出たと報告を受けております。今後どのような議論になっていくかわかりませんが、私どもの事業にも影響することなので、引き続き、しっかり注視していきたいと考えています。

今後諸外国の事例なども共有されると思いますし、放送事業者の立場や可能性についてお話しできる機会もあると思いますので、有識者会議を通じて、「日本国内の実情に合ったユニバーサルアクセス権」のようなものが出来ていくのかどうか、議論が深まることを期待しております。

Q. もし、放送事業者の立場として意見を述べる機会があるとしたら、どのような主張を伝えますか。

A. 地上波中継の最大の強みは、広く多くの人たちに届けることができる、ということだと思っております。先般のWBCでも前回の視聴者数を割り込んでいる状況もあります。競技団体によっては地上波での露出が減ったことで競技人口の減少につながっているというデータをお持ちのところもあると聞いています。そういうお話を伺うと、地上波で広く放送することが日本のスポーツ界全体の発展につながるのだと自信をもって申し上げたいと思っております。

今年の「24時間テレビ」について

Q. 「24 時間テレビ」について、既にチャリ T シャツやチャリティーパートナーの発表がありました。今年の放送において、例年との違いやアピールしたい点があればお願いします。

(岡部取締役執行役員)

A. 今年は総合司会の内村光良さんを中心に「温かい」24 時間テレビ、そしてファミリー感たっぷりのエンターテインメント性を追求した「明るく楽しい」24 時間テレビにしたいと考えています。今年のテーマは「わたしの家族の話～あなたは誰を想う?～」です。

今回、チャリティーパートナーとしてお迎えした SixTONES の皆さんは、メンバー間の強い結束力や信頼関係が、まさに「ひとつの家族」のような絆を感じさせるグループです。彼らが持つ真摯な姿勢を通じて、多くの視聴者の方々に、チャリティーの本質やテーマにある「誰かを想うこと」の尊さを、等身大の言葉で伝えていただけるものと確信しております。

また、漫画家・青山剛昌先生がデザインを手がけられたチャリ T シャツを盛り上げる「スペシャルサポーター」には、ちゃんみなさんに就任いただきました。時代の最先端を走るアーティストである彼女ならではの感性は、今年のテーマである「家族」「わたしの家族」というものに新しい視点と力強いメッセージを吹き込んでくださるはずですよ。

一昨年、昨年と、大きな反響をいただいた「目的別募金」は今年も継続し、従来の福祉・環境・災害復興に役立てられる一般募金の訴求にもより一層力を入れて行きます。

放送当日だけでなく、年間を通して、募金の使い道を丁寧に伝えてまいります。まだ発表されていない出演者の方々ににつきましては、今後順次発表していきますのでお待ちいただければと思います。

スタジオジブリ関連

Q. 子会社のスタジオジブリ作品について、5月は 2 作品が「金曜ロードショー」で放送されました。しかし、ジブリ作品は国内では配信されておらず、視聴手段が限られています。作品によって放送回数の差が大きく、一部の作品は視聴機会がなく忘れられていく懸念も指摘されていますが、今後御社の Hulu などジブリ作品を配信することはあるのでしょうか。またジブリ作品の魅力を広く届けるための方針を教えてください。

A. 現状においては、これまでどおり「金曜ロードショー」という地上波の枠で放送していくことをジブリと日本テレビの間で大事にしていこう、という考え方で進んでおります。もちろん、配信に関する様々なご要望や意見があることは認識しておりますし、議論は続けてまいりたいと思っております。

また多様なコンセプトの「ジブリ展」が全国を巡回しておりますし、映像以外でもジブリの世界観に触れていただく機会はそのようなところにもございます。常設の「ジブリパーク」、「三鷹の森ジブリ美術館」も皆様との大切な接点となっております。これからも作品が永く愛され、忘れられることがないよう努めてまいります。

Q. 6 月 22 日付で福田博之社長から現取締役の依田謙一氏への社長交代が発表されました。福田社長がこの3年間で達成できたこと、あるいは残された課題などがあれば教えてください。

A. 2023 年の 9 月にジブリと日本テレビが現在の資本・経営関係になった時点で、両社の橋渡し役を担うべくして私が社長に就任いたしました。「それまでのジブリがこのままのジブリであり続けること」を常に意識をし、その上でスタジオジブリを日本テレビグループ全体でバックアッ

プする体制の構築、番組作りやイベント制作での協業強化に取り組んでまいりました。その結果、協力関係において一定の成果を収め、従来以上に強固な関係を築くことができたと自負しております。新任社長となる依田ですが、ジブリにおける経験も豊富で、信頼できる、実務型の社長として間違いなく活躍をしてくれると確信しております。皆様の引き続きのご支援をよろしく願いいたします。

Q. 新たな作品の制作への期待や思いはありますか。

A. スタジオジブリにも新たな作品制作への意欲は十分ありますが、現時点で具体的にお話できる段階の企画はありません。

「追跡取材 news LOG」について

Q. 「追跡取材 news LOG」がスタートして1か月たちましたが、どのような所感をお持ちですか。

A. 視聴率に関しては、まだまだこれからだと認識していますが、内容面においては、この1か月で「番組らしい視点」の出し方が少しずつ形になってきているように感じています。記者のメモや独自取材を中心に大胆に構成することで、事件や事故に対する番組らしい取り上げ方の輪郭が見えてきたと受け止めています。まだ試行錯誤の繰り返しですが、番組現場には焦ることなく一歩ずつ進んでいくようにと伝えていきます。

初回の放送では、和久田麻由子さんの番組という印象を持っていただけなかったようですが、取材のプロセスに対して自らの言葉で疑問を呈したり、深く切り込んだりする時間を意識的に増やしていると聞いております。彼女の持つ豊富な経験や、知性、そして視点が、記者が持ちこんでくる現場の空気感とどう交わっていくか、これがうまく噛み合い始めると、より良い番組になっていくと考えております。

放送インフラの効率化について

Q. フジテレビが放送インフラ機能をホールディングスに移管するなど、ハードとソフトを分離する動きがありますが、日本テレビでも同様の検討は進んでいますか。また設備投資や保守運用などの効率化についてお考えを聞かせてください。

A. 放送インフラに対する考え方やあり方は各局一様ではなく、その時々状況・事情もあり、また社の方針にも関わってくるのだと思います。経営における選択肢の一つとしてインフラ分離があることは理解しており、検討する意義のあることだと思っておりますが、現在、日本テレビにおいて具体的な議論はしていません。

Q. 過去にハードソフト分離について検討したことがありますか。

A. 過去においても具体的に検討を行ったことはありません。

ジャイアンツのユニフォームについて

Q. 現在のジャイアンツのユニフォームは背中に背番号のみで選手名がありません。テレビ画面に選手が映っても誰かわからず、新しいチームになっているのもったいないと感じているのですが、中継でそういうことを何か意識していますか。

(岡部取締役)

A. ご指摘のあった通り、今シーズンのジャイアンツは若い選手や育成選手、ドラフト選手も含めて新しい戦力が入れ替わり立ち替わり登場しています。キャンプから取材を重ね、中継においては、そういった新戦力の選手たちが画面に映った際、画面でしっかり表示し、コメンタリーでも丁寧に紹介してというところを心がけて放送しております。ぜひそういう視点でも楽しんでいただければと思います。

嵐の活動終了について

Q. 今月末で嵐が活動終了しますが、福田社長のお気持ちを聞かせてください。

A. 嵐の皆さんには「真夜中の嵐」に始まり「嵐にしやがれ」と続いた数々のレギュラー番組、そして「24時間テレビ」などの大型特番でも長年にわたり本当にお世話になりました。今月末で活動終了ということで寂しい気持ちもありますが、それ以上に今はただ感謝の気持ちでいっぱいです。今後もメンバーの皆さんが個々の活動で輝き続けるように心から応援したいと思います。

「あのちゃんねる」について

Q. テレビ朝日の「あのちゃんねる」の番組内で「嫌いな芸能人」を答えさせた企画が騒ぎになっています。バラエティー番組でこうした「嫌いな芸能人」を答えさせる場面がありますが、社長はどのようなご見解をお持ちですか。

A. 演出・発言にもよりますので、私の見解は控えさせていただきたいと思います。

(了)

福田 博之 代表取締役社長執行役員
柴田 岳 取締役副社長執行役員
澤 桂一 取締役専務執行役員
岡部 智洋 取締役執行役員

※回答者名のないものは、福田社長による回答です。